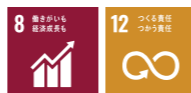




# 品質と安全



私たちは国内外のグループ会社16拠点でISO9001の認証を取得し、継続的に品質改善に取り組んでいます。安全面では、各生産拠点に安全衛生事務局を配し、グループ安全統括チームがそのマネジメントのセンターとなり、本社と生産現場が一丸となって労働安全衛生活動に取り組んでいます。また、私たちがサポートいただいている委託先の品質・安全に関する責任についても全うするため、委託先の自主性を尊重しつつ、品質パトロールや貸与設備の安全立会いなどを積極的に支援することで自社グループ生産拠点外での事故・トラブルの未然防止にも努めています。これからも私たちはお客さまから一層信頼いただける企業を目指して、社会規範を遵守し、さらなる品質・安全の向上に努めていきます。



## ● 安心・安全な製品をお客さまにお届けする品質体制の構築

2022年度は重大品質クレームゼロを達成しました。2年前の重大品質クレームの反省を踏まえ、変更点管理を強化してきたことや、事業所間の相互監査による再発防止策の効果検証が功を奏した結果であると断言したいところですが、それはこれからも重大品質クレームゼロを継続できて初めて言えることだと考えています。

品質保証部門は事業部門と独立した組織ですが、実際は各事業所に駐在して業務を遂行しています。そのため各事業所の強み、弱みを理解した上で事業部門を支援することも我々の役割であり、改善活動や再発防止策立案の支援、設計開発段階での支援などが自主的に主導的に進められる組織を目指しています。これからも事業支援と独立性を両立させて、安心・安全な製品をお客さまにお届けするしっかりとした体制を構築していきたいと思えます。

## ● 防虫対策

箔製品は食品や医薬品の包装材、リチウムイオン電池外装材などに使用されるため、品質管理基準が年々厳しくなっています。中でも製品への虫の混入は流出させると重大なクレームとなるため、流出防止の強化とともに発生原因となる虫を工場内に侵入させない対策を各事業所で取り組んでいます。この取り組みを各事業所の防虫事務局が主導で情報共有し、効果的な対策を水平展開することで効率よく継続的に防虫効果を高めています。また、この活動はパウダー・ペースト事業本部の事業所にも展開を開始しており、東洋アルミグループ全体の虫混入による不良を削減することに貢献しています。

## ● 事業継続のための重篤リスク低減活動

グループ安全統括チームは、社長直轄の組織として東洋アルミグループが継続的に社会貢献を行うため、重大な社会的影響を与えかねないリスク、経営に損失を与えかねないリスクの低減を目指して活動を進めてきました。「リスクはそれを認識するだけで低減する」という考えを基本として重篤災害リスクの抽出に取り組みました。具体的には各事業所の安全診断の方法を見直し、重篤リスクに特化した活動や、各事業所が気づきにくい重篤リスクを科学的・技術的必然性を基に説明することで各事業所のリスク低減につなげてきました。加えて、国内全事業所を対象に災害発生時に職場ごとに全員が機動的に動き、3分以内に対処できる訓練を実施し、訓練の課題を抽出して次の訓練に活かして、会社への影響を最小限にする仕組みを構築いたしました。今後も安全は最優先事項であることを肝に命じ、不断の活動を継続していきます。



初動訓練の実施風景

## 品質

重大品質事故ゼロを達成  
その継続と、不適切行為を  
誘発しない環境づくり、  
不適切行為ができない仕組み  
づくりに取り組んでいます

各事業所の品質保証活動を支援してグループ全体の品質保証レベルを向上させ、重大品質事故ゼロを達成するのが私たちの役割です。そのために重大クレームにつながりやすい変更点管理の強化と、一般的なクレームに対してもしっかり対応できる是正処置のレベルアップに取り組んできました。その結果、2022年度は重大品質事故ゼロを達成しました。これは単年で満足するものではなく、継続してこそ意味があります。気を緩めることなく変更点管理の強化と是正処置のレベルアップに取り組んでいきます。

2023年3月に公表した「品質等に関する不適切行為」の再発防止対策では、不適切行為

を誘発しない環境づくりと、不適切行為ができない仕組みづくりの両方を実施しています。社長が全国の14事業所で従業員と直接対話して再発防止への決意と意識改革を伝えたことで、従業員のコンプライアンス意識を高めることができました。仕組みづくりでは、現場で働く人たちが内部通報制度を積極的に活用する第1のディフェンスライン、私たち品質保証部門の監査による第2のディフェンスライン、内部監査チームが品質に関する不正ヒアリングを実施する第3のディフェンスラインと3つの防御策を設けました。

不適切行為を誘発しないためには、製品の仕様書を締結する際に、工程能力指数\*の考えを理解した上でお客さまと交渉できる人財が必要です。各事業所の品質保証部門には統計的品質管理手法を理解し、実践できる人財を配していますが、さらに充実させるための人財育成に取り組んでいます。

ISO9001の審査の際に、品質においてもカーボンニュートラルの動きと連動して考えることが必要という意見をいただきました。また、お客さまからのアンケートで人権方針に

ついて問われるケースも多くなっています。今後は品質保証においてもサステナビリティの視点を活かした活動を検討していきます。

\* 工程能力指数:ある工程の持つ工程能力を定量的に評価する指標のひとつ



コーポレート部門  
品質保証  
ユニットリーダー  
山越 哲弥

## 安全

事業所と一体となって、会社  
存続に重大な影響を与える  
重篤災害・事故リスクの撲滅  
に挑んでいます

私たちグループ安全統括チームは、会社の維持継続に影響を与える重大なリスクにフォーカスし、その撲滅を目指す活動を中心にしています。事業活動が停止する代表的なリスクである火災に対しては、火気事故を未然に防止するとともに、出火しても最小限の被害に抑える初期消火訓練の強化に取り組んでいます。法令に定められている訓練だけでなく、各事業所の職場ごとに全参加者が役割を持って取り組む小チームでの訓練を展開しました。今後は夜間火災を想定した訓練など条件を厳しくしたりして、訓練の頻度を上げて初期消火のレベルアップを目指していきます。

操業における日々の安全活動に加えて、重大なリスクを意識した活動に取り組んでもらうために、私たちは「リスクは認識するだけで

低下する」という考え方を基本にしています。そのために、過去に起こった災害や事故の風化を防止する活動を新たに始めました。重大災害の発生日に、その災害を振り返ってもらうなど、重大災害を後世に語り継ぐ活動です。当チームではこれまで約30本の安全動画を配信していますが、風化防止に特化した動画も配信を始めました。当時の関係者に登場してもらい、事故や災害が二度と起きないように後世の人にはぜひこうして欲しいと語りかけるような動画で酸欠事故、油漏れ事故、全身火傷の3本を制作しています。この動画の反響は大きく「動画を観て思い出した。あの事故を教訓にして今、こんな対策をとっている」というように、各事業所内で話し合うきっかけになっています。

事故や災害はほとんどの場合、リスクを知らないことから起こっています。人はリスクを知らず自然とそのリスクを避けようと行動するのです。逆に言うと、リスクを知らずに対策や手順だけを守っていても、いつかは事故や災害が発生します。私たちは安全のドクターとして、各事業所の安全活動を診断するとともに、活動について悩みや疑問があれば、一

緒に対処方法を検討し、その実行をサポートすることで、グループ全体の安全文化の成熟に貢献していきます。



グループ安全統括  
チームリーダー  
猿渡 昌隆